

越前町議会・令和6年12月定例会一般質問【石田和朗議員】

(令和6年12月5日 午前10時1分 開始)

○4番（石田和朗君） 丹生郡から旧清水町と越廼村が福井へ移り、朝日、越前、織田、宮崎の4か町村が合併して越前町となって、艱難辛苦を乗り越えて20年、うちの孫娘もはたちのつどいです。

越前町合併20周年を記念して、越前町はカメリアホールで祝典を盛大に開催いたしました。町関係団体の中には、越前町合併20周年記念を冠にして、大会やイベントを催して盛り上げております。

その中の一つ、越前町文化協議会は、11月23日、カメリアホールで越前町20周年記念を冠に、2024越前町音楽祭を開催、2部構成で、第1部は福井県出身の音楽高校や音楽大学に通う若手のピアノ・フルート・サクソ・オーボエ・バイオリン、そしてマリンバを交えた演奏曲は観衆を和ませ、万雷の拍手で、いつの日かまた越前町で再会を期待されるグループでした。第2部は、九州福岡を拠点に活動するミュージシャン4人、若さと個性が光る見ごたえと聞きごたえのある演目で、すばらしかったです。

議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

県内の各市町で進められている全天候型子どもの遊び場について伺います。

福井県の肝いり事業として全天候型子どもの遊び場を整備することに対し、県内9市8町にそれぞれ1億円の補助金が交付されることとなっています。各市町では、候補地、設備の内容、活用の方法、維持管理、補助金を超過する場合の自主財源の確保といった検討項目があり、結論を出すまでには相当の苦慮があるのではないかと思います。

当町においても、他市町の同事業の進捗状況や事業規模といった情報収集のほか、事業の履行期限が迫っていることから、今年度の子どもの遊び場整備基本計画策定委員会の設置や計画策定業務委託などの関連予算の計上といった動きが見られています。

さきの9月定例会には、子どもの遊び場整備基本計画策定委託料550万円が補正予算と計上され、会期中の5日には、候補地とされる3か所の現場踏査を行い、担当課長から策定委員会へ出された意見を基に説明を受けました。

現場踏査を行った施設は、朝日地区の福井総合植物園プラントピア朝日、宮崎地区の花みづき炎ぼの館、同じく宮崎地区の越前陶芸村文化交流会館の3施設であり、策定委員会のメンバーである議会選出の議員からも検討結果の報告を受けています。

①のプラントピアは、既存の部屋の手狭さ、細かな間仕切りがあり、子どもたちへの目配りが課題。②の炎ぼの館は、大きな空間であり、自動シャッターにより側面が開閉できるといった使い勝手のよさは評価できるが、広過ぎるワンフロアの室内という構造上、空調設備や用具等の備品格納庫、遊具類の設備の仕切りなどに相応の費用がかかって支障がある。③の文化交流会館は、陶芸村の中心にあり、大駐車場があることや、晴れた日には屋外の芝生広場で元気に活動できるというように、立地条件がよいといった意見が出されたとのことでした。

私としては、その中でも、越前陶芸村文化交流会館は、一流の音響で最高級のピアノを備えた県内外に誇れる音楽堂としての一面もあり、そこで奏でられる音色

は心に響くものがあります。さらには、和太鼓やマリンバの演奏会、かつては落語家などによる演芸があったことも印象に残っています。また、現在は、施設のロビーを活用し、越前焼の展示や販売、企画展の開催など、日本六大古窯である越前焼の殿堂であり、宮崎地区における宝物館であると思っております。

現代は、少子高齢化が進み、人口減少時代にあり、ふるさと越前町の創生を目指し、青柳町長のモットーである人に優しく地域に優しいまちづくりを実現されるためには、解決していかなければならない課題が多いと思います。

以前、私は一般質問において、「銀も金も玉も何せむに 優れる宝 子にしかめやも」と、万葉集、山上憶良の歌を引用し、子どもは宝で万金に値すると述べました。そういう意味では、全天候型の遊び場を整備することに対しての異論はありませんが、しかし、やはり、越前陶芸村文化交流会館という文化の薫る立派な建物に対し、外科手術のごとくメスを入れて改修工事を行うことには納得できない思いを持っています。

私が思い描いた子どもの遊び場とは、安全な芝生広場、砂遊び、水遊び、緩い傾斜でスケートボードができるといったもの、元気な子どもたちにとって楽しい施設を思い描いていました。私自身、スキーシーズンになると、県内はもちろん、白山山麓や杵池高原、志賀高原といったスキー場に出かけシニアスキーを楽しんでいました。が、3年前、突然、脊髄梗塞になり、歩行が不自由になりました。発症後は毎週のリハビリに努め、励み、今では、グランドゴルフやボッチャ、輪投げ大会などのスポーツ大会にも参加できるまでになりました。

先日、越前町の合併20周年記念イベントとして、越前町ふれあいスポーツ大会が開催され、例年は身体障がい者協会の会員のみの催し物でしたが、今回初めて、民生児童委員にもご参加いただき、一緒に競技をすることで、拍手や笑い声が絶えず、親睦も深まり、大変盛り上がったことから、次回からも継続して行うことができることを期待して閉会しました。

その大会には、越前町内各地から、マイカーや相乗り、近くの方は電動シニアカーで来られる方もおられました。そこで、ふと思ったのですが、子どもの遊び場を利用されるのは、子どもはもちろんですが、子どもたちを送迎したり一緒に遊んだりするのは、親御さんだけでなく、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に利用することになるのではないかと。また、その障がい者の方もいらっしゃるのではないかと。障がい者には身体と知的がありまして、他人に知られることを嫌がられる方もおられます。それでも、障がい者スポーツに取り組み、さきのパラリンピックなどでは輝かしい成績をおさめられている方もいます。が、その中には、幼いころは、いじめや仲間外れにあうことを恐れて、障がいの部位を隠して遊んでもらったが、つらかったと言っておられたことも印象に残っています。

いずれにせよ、子どもの遊び場には全ての子が遊べる道具を設置して、健常児も障がい児も分け隔てなく一緒に遊べる遊具や設備が必要ではないかと思っております。障がい児は遊べなくても仕方がないというような概念を持たせない、そうした当たり前を更新することで、赤ちゃんから高齢者までの誰もが好きなように施設を利用でき、幸せを感じられることで優しい社会づくりの実現に結びつくと思います。

そこで、これらを踏まえて、青柳町長にお伺いします。

1つ目は、越前陶芸村文化交流会館を子どもの遊び場として整備することは町民にとって本当に是とお考えなのでしょうか。2つ目は、健常児も障がい児も、そしてお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒になって遊べる遊

具設備の整備は、子どもの遊び場基本計画に的確に盛り込まれていることになっているのか。

以上、簡単ですけれども、町長のご所見をお伺いします。

○副議長（藤野菊信君） 町長。

町長（青柳良彦君） 登壇

○町長（青柳良彦君） それでは、石田議員の質問にお答えいたします。

子どもの遊び場整備事業実施の方向を示してから今日まで、機会あるたびに月例会等において説明させていただきましたが、町では、利用する子どもや保護者の意見を第一と考え、昨年6月に町内12保育施設の保護者代表など16名で構成する子どもの遊び場整備検討会を開催し、候補地12か所のリストアップ及び遊び場に求める要件の明確化を行いました。

今年度には、学識経験者等で構成する子どもの遊び場整備基本計画策定委員会及び役場関係部局、専門知識を有する職員等で構成するプロジェクトチームにおいて、遊び場に求める要件に基づき検討を重ねた結果、越前陶芸村文化交流会館への整備が最も適しているという判断をいただきました。

ご存じのとおり、越前陶芸村は、町内のどこからもアクセスがよく、休日は芝生広場や屋外遊具などで楽しむ多くの親子連れでにぎわっています。町としましても、その玄関口にある当施設への子どもの遊び場整備は、子育てしやすいまちづくりの一翼を担うと考えており、議会のご同意を賜るとともに、町民の方々のご理解を得ながら進めてまいります。

次に、子どもの遊び場整備基本計画では、障がいの有無を問わず、全ての利用者が楽しく遊べる施設となるよう、全天候型の施設とし、遊具だけではなく、休憩スペースなど、施設全体を通した工夫を凝らしたいと考え、基本計画策定委員には学識経験者や障がい福祉関係者を委嘱し、専門的な知見を踏まえた意見をお聞きしながら検討を進めているところです。

今後は、子どもたちのチャレンジ精神や好奇心を刺激し、創意工夫しながら遊ぶことができる越前町らしい遊びの空間が提供できるよう検討を重ねるとともに、保護者が子どもの遊んでいる様子を眺めながら快適で安心して過ごせる工夫を施すなど、何度でも訪れたくなるような施設を目指してまいります。

以上です。

○副議長（藤野菊信君） 石田和朗君。

○4番（石田和朗君） 丁寧な答弁ありがとうございました。

この町は、急速に少子高齢化が進み、せつかくの子どもたちの遊び場から子どもたちの姿が見られなくなるかと心配もしています。新規の建物や施設には必ずランニングコストが発生し、場合によっては町のお荷物になります。早い段階から全ての住民、特にシルバーの遊び場という場合に、シフトも視野に入れてよりよい方向を考えて進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。答弁は要りません。終わります。

以上です。

（午前10時20分 終了）